

神戸電鉄粟生線地域公共交通計画の数値目標に対する令和6年度の実績値及び評価等について

基本方針	指標	現況値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	目標値 (R9)	実績値に対する評価・今後の取組等
基本方針1 鉄道を軸とした地域公共交通サービスの安定的な維持・確保	①安全で安定した輸送サービスの確保のための新型車両の導入編成数	—	—	—	—	4編成 (累計)	・新型車両の導入について、当初はR6年度からの導入を予定していたが、半導体不足の影響により、R7年度以降の導入となる見通し。
	②車両や鉄道施設等の更新・改良に対する兵庫県及び沿線市の支援充当率	33% (33.3%)	33% (33.2%)	33% (33.2%)	33% (33.3%)	3割以上	・兵庫県及び沿線市による協調支援の補助率は3割以上の支援充当率を確保。 ・粟生線の安全で安定した輸送サービスの確保のため、引き続き、協議会として国への要望活動を行うとともに、県及び沿線市においても支援を継続する。
	③時間貸P&R駐車場の年間利用者数	111百人	125百人 (R3+14百人)	140百人 (R3+29百人)	156百人 (R3+45百人)	142百人 (R3+31百人)	・R9年度の目標達成に必要な利用者数+31百人(増加率+27.9%)に対しR6実績値は+45百人(+40.5%)で、達成率は110%となった。 ・R3年度からR6年度にかけての粟生線の実利用者数は12%増加しているのに対し、P&R利用者数は40%増加しており、実利用者数の増加を上回るP&R利用者数の伸びであることから、P&Rの利用促進が図られていると考えられる。 ・R6年度にリニューアルキャンペーンを実施した小野駅前第1、第2駐車場のR6年度のP&R利用者数(計2,824人)は、コロナ禍以前となるR元年度(計3,068人)には満たないものの、R5年度(計2,321人)と比べ21%増加した。 ・今後も、P&R駐車場の精算機におけるキャッシュレス化の拡充に加え、キャッシュレス決済のポイント付与を活用したリニューアルキャンペーンの実施により、引き続き利用促進を図る。
基本方針2 まちづくりと連携した地域公共交通サービスの構築	①-1 住宅地と鉄道駅を結ぶアクセスバスと鉄道の待ち時間	8分 (8.55分)	7分 (7.55分)	7分 (7.52分)	7分 (7.43分)	7分	・R4年度に平均待ち時間を現況値から1分短縮。 ・R6年度は、R7年3月鉄道のダイヤ改正があったものの、現況値から1分短縮の実績値を維持。
	①-2 企業用地と鉄道駅を結ぶアクセスバスと鉄道の待ち時間	5分 (5.50分)	5分 (5.33分)	5分 (5.33分)	6分 (6.50分)	5分	・R7年2月らんらんバス、R7年3月鉄道のダイヤ改正により、樺山駅における平均待ち時間が1分増加となった。 (※アクセスバス利用者の増加に伴う乗降時間の増加、交通事情によるアクセスバスの到着遅延が生じやすい状況への対応としては、駅における確実な乗り継ぎ時間の確保につながった。)
	①-3 観光地と鉄道駅を結ぶアクセスバスと鉄道の待ち時間	5分 (5.50分)	5分 (5.50分)	5分 (5.50分)	2分 (2.00分)	5分	・R6年度は平均待ち時間が大幅に短縮しているが、該当する路線バスの減便によって待ち時間を算出する対象便が4便から1便に減少したことによる短縮のため、取組による効果ではない。
	②神戸市西区・三木市・小野市の工業団地の従業者数	172百人	173百人 (R3+1百人)	175百人 (R3+3百人)	176百人 (R3+4百人)	175百人 (R3+3百人)	・R9年度の目標達成に必要な従業者数+3百人(増加率+1.7%)に対し、R6実績値は+4百人(+2.3%)で、達成率は101%となった。 ・神戸複合産業団地の最寄駅である木津駅の利用者数をみると、R6年度は462千人で、コロナ禍以前(R元年度、366千人)を26%上回る実績となっており、従業者数の増加が粟生線利用に寄与していると考えられる。 ・地方創生に係る沿線市の計画との整合性を図った指標であることから、引き続き、各市の計画との整合性を図りつつ、実績値の動向を把握していく。
	③三木市・小野市の観光入込客数	598万人	713万人 (R3+115百人)	720万人 (R3+122万人)	697万人 (R3+99万人)	737万人 (R3+139万人)	・R9年度の目標達成に必要な観光入込客数+139万人(増加率+23.2%)に対し、R6実績値は+99万人(+16.6%)で、達成率は95%となった。
基本方針3 市民・行政・事業者等の連携による地域公共交通の活性化	①鉄道実利用者数及び沿線地域 1人当たりの年間鉄道利用回数	627万人 36回	673万人 (R3+46万人) 39.2回 (R3+3.2回)	692万人 (R3+65万人) 40.6回 (R3+4.6回)	706万人 (R3+79万人) 42.2回 (R3+6.6回)	700万人 (R3+73万人) 44回 (R3+8回)	・実利用者数については、R9年度の目標達成に必要な利用者数+73万人(増加率+11.6%)に対しR6実績値は+79万人(+12.6%)で、達成率は101%となった。また、鉄道利用回数については、R9年度の目標達成に必要な鉄道利用回数+8回(増加率+22.2%)に対しR6実績値は+6.6回(+17.2%)で、達成率は96%となった。 ・引き続き、計画に基づく事業を着実に推進するとともに、後述の自転車との連携等、新たな取り組みにもチャレンジしながら利用者の確保を図っていく。
	②定期の鉄道実利用者数及び沿線地域の生産年齢人口1人当たりの年間鉄道利用回数	354万人 37回	365万人 (R3+11万人) 39.0回 (R3+2.0回)	372万人 (R3+18万人) 40.1回 (R3+3.1回)	382万人 (R3+28万人) 41.9回 (R3+4.9回)	370万人 (R3+16万人) 43回 (R3+6回)	・実利用者数については、R9年度の目標達成に必要な利用者数+16万人(増加率+4.5%)に対しR6実績値は+28万人(+7.9%)で、達成率は103%となった。また、鉄道利用回数については、R9年度の目標達成に必要な鉄道利用回数+6回(増加率+16.2%)に対しR6実績値は+4.9回(+13.2%)で、達成率は97%となった。 ・コロナ禍の反動増について、以前は定期外に比べ定期の回復度合いは低かったが、神戸電鉄および近隣各社局で回数券発売が終了となったことで、一部の御利用者は定期へシフトしていると推察され、直近では定期の回復度合いが大きくなっている。引き続き、今後の利用状況を注視していく。
	③定期外の鉄道実利用者数及び沿線地域1人当たりの年間鉄道利用回数	274万人 16回	308万人 (R3+34万人) 17.9回 (R3+1.9回)	320万人 (R3+46万人) 18.8回 (R3+2.8回)	324万人 (R3+50万人) 19.4回 (R3+3.4回)	330万人 (R3+56万人) 20回 (R3+4回)	・実利用者数については、R9年度の目標達成に必要な利用者数+56万人(増加率+20.4%)に対しR6実績値は+50万人(+18.2%)で、達成率は98%となった。また、鉄道利用回数については、R9年度の目標達成に必要な鉄道利用回数+4回(増加率+25.0%)に対しR6実績値は+3.4回(+21.3%)で、達成率は97%となった。 ・今後、定期外の利用促進策の一つとして「粟生線サイクルトレイン」を1日限りの特別列車ではなく、恒常的な取組となるよう実証実験を重ねながら課題を整理・解決し、サイクリングとの連携による利用促進につなげていく。